婦人と新社會

山田わか主筆

七月號

性慾倫理と結婚制度

全部のうちの一部

似て非な社會改革家を排す

歷史の社會的解釋

時事評論

與論の割り引き

盛んな女子運動競技

蓄妾制度と日本民族

意志强弱の標準

日記の中より

田中芳子夫人の手紙

失業◎偉人と品行

近代歐洲思想の歷史的研究

毎月一回一日發行　第四十一號　大正十二年七月一日發行

東京市婦人と新社會社發行

婦人問題研究資料

婦人と新社會

第一卷二圓五十錢
第二卷三圓
第三卷三圓

合本

總クロース
金字入美本
送料各十五錢

内容主要目次

■社會と婦人■文化と文明■家庭婦人と政治■家庭と家屋と文明と■婦人の解放とは■婦人運動の發達と其の傾向■性的教育■男子の婦人論■結婚に對する現代人の態度■婦人の經濟的地位と責任■婦人と社會奉仕■女權と子供■女性の直覺■本能の跋扈から本能の征服へ■米國婦人の生活と婦人參政權■青年男女の交際機關■道德と藝術■新マルサス主義を否定す■男性文明の末路■產兒制限の倫理的批判■小學教員と母性■母性の革命天才、遺傳、環境に附ての考察■スペンサーの婦人觀■再婚に付いて■男女關係と母子關係■健全なる人生觀が現代政治の不安を一掃する■「男らしさ」の定義を變更すべき時■再び家庭の危機に附ひて■集合的育兒法と子供の幸福■不滿と社會主義■オリーブ・シュライネルの死■婦人の心理的創造力の解放■女子高等教育と出產率■革命と人間性■何が流行の浪を造るか■男子の不貞操に限て■新社會の教育方針■社會制裁機關としての家庭■生命の新價値■新時代の戀愛と結婚■時代精神を體得した婦人■女權主義者と產業王との對話■新時代が要求する團體生活■基督教が人心を納め得る一つの秘訣■ルソーと現代の思想家■多數制が眞の民主々義か■科學的態度の缺乏■交換價値と使用價値■婦人問題の社會學的基礎■婦人參政權の贊否■愛の惱みを癒すエレンケイ■適者生存の人道化が我が皇室の萬世一系■人類の希望と婦人■女性の特質と女子教育■太平洋會議の側面觀■新時代の夫の資格■カールマルクスと彼の母■家族制度と個人主義■理想の夫婦■機械と人生■教育と社會良心■能率の限度■軍備縮少と母性保護■婦人から政治家への要求■家庭奴隷から家庭の女王へ■社會生活と責任■最近婦人論の傾向■新聞と責任■家庭の進化■家庭・愛國主義・世界平和■知的婦人の職業■現代不安狀態の原因に就て■人間性と社會生活■人間の生活と動物の生活■遊な不具者と其の婦正■物價調節の鍵■新時代と婦人の位置■婦人思想界の浮標■早婚の弊に關する一考察■其の他數百篇

東京市四谷區南伊賀町四一
婦人と新社會社
振替口座東京五三六八八

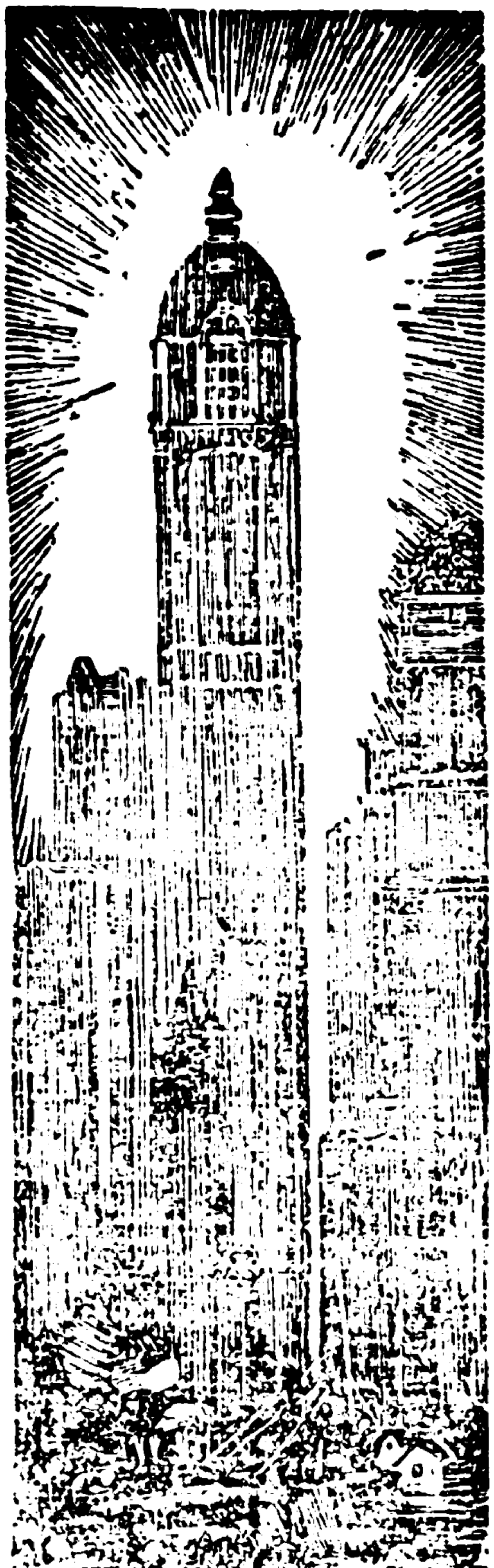
婦人と新社會

七月號

全部のうちの一部

我々の一生の間に、以前に、自分が爲さればならぬと思つたが、併し、多くの外の事柄と共に捨てればならなかつた仕事がある。其の仕事が他の人に依つて、今、爲し遂げられるのを見て、嫉みではない、美しい感情が我々の心のうちに起つて來る。

人類は共同して始めて本當の人間となる。自分は全部のうちの一部であると感ずることが出來るやうになつた時にのみ、自分が出來なかつたことを他人がするのを見て、喜ばしく幸福であると言ふ美しい感情が我々の心のうちに起るのである。（ゲーテ）



性慾倫理と結婚制度

一

不圖したことから思ひ付いたことを、まるで神からの默示か、或は大眞理の發見でもあるかのように大聲を上げて說き廻る人が往々ありますが、新しい主義又は新しい宗教を主張する人々の多くも大抵はさう云ふ種類の人達です。彼等は人生の最も深刻な問題に對して自己の淺薄な說を立て、そして何千年の人類の經驗の流れに抵抗し

ようとします。彼等の言論や運動は、其の經驗の流れには斷じて何等の影響もないのであります。併し、何にかのはずみで其の流れの表面に針程の逆流でも見付かるならば、彼等は忽ち其の流れの方向は變つたものと早呑込みをして、そして其の針程の逆流を以て其の川の本流とし、自分の主張が全眞理であるかのように誇張します。

現代は批評の時代だと云はれてゐますが、併し、不幸にして、批評の最も主要なる點、則ち自己批評と云ふことが殆んど其の影を潛めて居ますので、折り〳〵誇大妄想狂が現れて世間騷がせをしたりします。自己批評と云ふことは私共個人々々の經驗及び觀察の範圍を正確に認り、そして、私共の思想及び判斷力の源泉を客觀的に價値づけて見ることです。

此の自己批評の缺乏は倫理の問題に關して一層甚だしくなつてゐます。倫理以外の思想界に於ては、世間から批評されるような著作をしようと思へば、少なくとも其著作のために長い間の準備が必要であつて、一夜づけのようなものは到底批評を受ける

價値などはないとされてゐますが、倫理思想界に於ては何等の用意もない、如何なる無學な人間でも忽ち其の仲間入りをして、そして、淺薄な考へを提供してゐます。ですから、倫理思想界は恰も素人競技者のあつまつて居る競技場のようなものです。

こう云ふ狀態になつた所以は、倫理の性質が誰でも嘴を容れることが出來ると云ふ事實に因るものでありませうが、併し、此の誰でも嘴を容れられると考へるのが旣でに幻想です。なぜなら、人間の行爲の研究は歷史的及び個人的ライフの最も深い處に存在する事實に關する問題であります。ですから最高な科學的研究法でも、唯、其の外皮だけしか見ることが出來ません。從つて人間の行爲の眞相を究めようとすれば、人生の深い共通な經驗と、天才の直覺にまつの外はないのです。其の時々の出來心に動かされて居るような淺薄な人達は到底嘴を入れるような資格を有たないのです。

倫理思想界のうちでも殊に性慾倫理に關して私共は前述の弊を痛切に感じてゐます。

二

現代の諸制度のうちで、結婚制度程非難を受けてゐるものはありません。過去に執着する人は、今日の結婚制度に對する攻擊を心よからず思つて居るようでありますが併し、彼等とても心の奥では此の制度が此のまゝであつてはならないことを承知してゐます。又、此制度の改良に心を傾けて居る人は、容易に彼等の要求通りにならない云ひかへれば、彼等の理想通りになるにはなかく前途遼遠であるので、非難の聲を擧げて居ます、其の次には、革命家がさう云ふ制度が依然と存在してゐることに對して奮慨して居ます。そしてかくの如き制度が彼等の想像してゐる社會上道德上の革命を妨げてゐると絕叫してゐます。

其處で私は、今、過去に執着して居る人や、又は結婚制度の改良に心を傾けて居る人々に付ては暫く措き、革命家の性慾倫理、則ち戀愛觀に付て少しく考へて見ようと思ひます。彼等は申ます『今日迄の結婚制度は女並びに男にも等しく不都合な制度で

ある。女を盜み取り奴隷にした習慣は今日猶殘つて居るし、打ち捨てゝ置くならば其の習慣は殖へて行くとも減じはしない』と。

そして彼等は今日の結婚制度を其の土臺から破壞しようとしてゐます。彼等の今日の結婚制度を破壞しようとする考への根底となつて居るものは主に『今日の結婚制度は必然、私有財產を保持するものである。今日の結婚制度による家族關係は必ず財產の相續と云ふことになる。從つて、今日の結婚制度は資產階級の維持になるのだ。そして、間接には保守的な利益の發達になる。社會の見地から見て有害な危險な結婚は心理學の見地からも間違つた原則の上に成つてゐる。則ち、法律の範圍内に人間の感情を閉ぢ込めてしまう。結婚は人間の心の要求に反するものである。常に目覺めてゐて、そして絕へず變化を求めてゐる我々の感覺は法律の條文や、或は契約の條項に束縛されることには耐へ得ない。であるのに何故に人間の性質に反して居り、不可能である義務を夫婦の上に强制して置くか？』

と云ふのです。實際今日の結婚の多くは主に物質が最大條件となつてゐます。結婚の當事者は、殊に女は男の家產に第一に目を付けます。生活の安全を計ることを主要としてゐます。道德上、生理上、最も立派な最も强い人も、もし所有する物質が貧弱であるならば、愛の對者を充分に選擇する機會を持ちません。そして其れが人種の墮落となつてゐます。

利益のために卑しくなつてゐるのですから、性的感情は美しい戀愛とはならず、從つて眞の意味の結婚とはならないで、賣買淫と云ふ悪いかたちになつて現れます。つまり多くの結婚は法律の保護を受けた賣買淫に外ならぬものとなつてしまうのです。愛の結晶であるべき筈の子供は等簡にされ、金力が人生に於ける最高權威となり、そして金力によつて固められた有力な併し悪性な現代の社會が維持されると云ふことになります。そして婦人はいつ迄も隷屬の位置に置かれるのです。

三

無政府黨のうちの最も雄辯家であつた。セバスティャン●フォールは『結婚は特別賣淫である』と云つてゐます。又社會主義者のうちの理論家ブノア●マロンは結婚生活の重大なる禍患をいくつも擧げて、そして、『今日の結婚制度は資本制度よりも一層有害だ』と云ひ、又、『結婚論の動かすべからざる論理は、自由結婚ですら、まだ滿足出來ない。なぜなら此の自由結婚ですらも等しく我々の感情の牢獄である。』と云つてゐます。

けれども、セバスティャン●フォールは又『自由結婚なるものが唯一の實際的、理想的結婚である。法律、並びに宗教の批准がないだけで、相愛する二人の同棲は利益の共同があり、彼等の日常生活には落ち付きがあり、そして其れが有益な習慣となる殊に子供の出生は二人の上に義務と責任が生じ、其れが相當の時期を經てからは二人の間にモーラルボンドを創造する。そしてこのモーラルボンドは法律と宗教とによつて鑄造された義務の鍵よりも遙かに力强いものである。』と。

かくの如き結婚はたとへ法律の批准が無くとも、又宗教的の儀式を經て居なくとも立派な結婚であるに相違ありません。かくの如き人々には外から何の干渉も制限も持つて行く必要がありません。

一體、人に對する制限と云ふものは、人の行爲が他の人に迷惑をかけ、害を及ぼすから必要であるので、自分でモーラルボンドを創造するような人々の行爲は他の人を害すようなことが有りよう筈がないのですから、さう云ふ人々に對しては何等の規定も法律も必要でありません。又其のモーラルボンドを創造するには相當の年月が必要であり、そして其の年月の間には自分の上に充分なる制限を置いて居る人達でなければ出來ないことです。さう云ふ意味の自由結婚に對しては如何なる頑迷な人でも反對の聲を擧げる餘地がありません。

けれども、或る一部の人達の自由戀愛及び自由結婚はそれとは全く趣きを異にしてゐます。彼等は戀愛の上に、及び結婚の上に何等の責任も感じず、制限も置かずに性

慾と云ふ風に吹き廻はされて、相手を求めます。さう云ふ男女の二人を私共は眞の夫婦と云ふことは出來ません。それはたゞ單に二個の肉體が一緒になつて居るだけです。彼等は彼等の感情が相手に引きつけられる間は一緒にゐます。けれどもいづれかの一方が厭きた時には他の一方を置き去りにして、又、新しい相手に走ります。そして一方は苦惱のどん底へ陷れられます。其の場合にもし子供があつたり、病氣があつたりしたならば、其の苦惱は一層烈しいに相違ありません。

戀愛と云ふものは生れるもので、相談の結果、造り上げるものではないのですから相談の上で別れた處が嫌つた方から見れば何でもない、古草履を捨てた位に思つて居るかも知れません。が、もし嫌はれた方に本當の愛があつたとすれば、それは非常な苦痛、非常な壓制、非常な屈辱です。もし、相談の結果、双方が平氣で別れることが出來て何等の苦痛も感じないのであるならば其れは戀愛でもなく、夫婦でもなく、賣買淫であつたのです。ですから、結局は、正直な、本當の愛を持つて居た方が苦しめ

られ、馬鹿にされることになるのです。
人間の生れながらの本能は奔放なもの、變り易いものでありますから、意志の力を用ひずに其の本能のまゝに動いてゐる戀愛は、如何なる鎚を以てしても到底、一度選まれた相手を長く結び付けて置くことは出來ないのです。

四

或る學者の戀愛研究によると、或る人間の戀愛性は一種のクレプトマニヤ（盜心狂者）で、そして、これは一種の精神病であるのです。物品ならば目に觸れたものは皆欲しくて自分のものも他人の物も區別が付かなくなり、異性ならは、其の異性と自分との關係が何であれ、又、異性の位置が何であれ、其の異性と戀愛關係を結びたくなるのです。
世間には自由戀愛の犧牲となつて苦しむ婦人が隨分澤山ありますが。（婦人ばかりでなく此の頃では男子の方にも其の犧牲にされるものが往々ありますが）實にそれは相

手の病氣の犧牲になつたのです。さう云ふ病人は所謂自由戀愛の名の下に新しい愛の相手と快樂を求めて本能と云ふ風の吹くまゝに吹かれて行きます。そして、あちらにもこちらにも自由戀愛の死骸を置きつぱなしにして行きます。

一度、さう云ふ風に乘つて動き出した以上は如何なるものも彼を抑へることは出來ない。もし彼が二三人で思ひ止まることが出來るならば彼は矢張り制限を知つてゐるのでクレプトマニヤとは少しく種類が違ひます。ですから、戀愛のクレプトマニヤは野蠻時代に於てすらも見ることが出來なかつたような雜婚の狀態を實現します。凡ての制限を突破して絕對自由に相手を求むることが無數の犧牲者を出して止みません。そして其の犧牲者は此の宇宙のあらゆる不幸なものゝ中の最大不幸なるものであります。

幾人もの若い女性を自由戀愛の犧牲とした島田某は此のクレプトマニヤでない迄も、少なくとも其れに近い者であるにも拘らず、文學界の大家達の幾人かゞ、「まだ

若いから無理はない。」とか、又は「それも若い者の自然の要求である」とか言つて居るのに私は少なからず不平に思つてゐます。

世間には、又多くの猪口才な人間があつて（これは一度本誌に書いたことがありますが）本當のことは何にも分つて居もしないで、小さな、安つぽい理想的戀愛なるものを捏ね上げて、そして丁度玩具製造人がいゝ加減な模倣品を造つては子供達に提供して喜ばれてゐると同じように、まだ意思薄弱な若い者に其の安つぽい理想的戀愛なるものを提供し、喜ばれてゐます。實物を模倣した玩具を實物と心得て居るならば、いつかは必ず幻滅します、そして其の幻滅の苦しみは甚大です。

五

要するに、それ等の不幸は皆、此の文の始めに云つて置いた通り、不圖した思ひ付きを神の默示か、或は大眞理の發見でゝもあるかのように錯覺したり、又はせたけが一人前になつたばかりで、知力的及び精神的にはまだ／＼西も東も分らない赤ん坊で

ありながら、もう何にもかも分つたようなつもりで、大膽な行動をとる、つまり餘りに自己に暗い、云ひかへれば、自己批評の缺乏が恐しい不幸の源となつてゐるのです。

猶、一言して置かなければならないことは、我が國の淺薄な戀愛研究者は、本當の意味の戀愛研究の全體の傾向を無視して、泰西の戀愛研究者の議論のうちの、唯、局部局部の奇拔に見へる處だけをぬきとつて、そして其の奇を叫んでゐます。

バツホン、モリス、ヒントン、カーペンター及びエリスなどの諸說の或る部分だけをぬきとつて見るならば、それは隨分極端なものであるに相違ありません。併しそれ等の人々の議論の全體を讀んで、そして綜合して見るならば、其の主張の要點は大抵皆一致してゐることが分ります。

一部分だけを讀んだ時にはまるで、反對の說のように思つても、其の人のものを廣く讀んで見るならば、さうでないことが分つて來ます。そしてそれ等の人々の戀愛觀

も要するに、エレンケーの戀愛觀に一致して來ます。則ち戀愛は結婚となるべきもの理想的の結婚は物質や周圍の事情によるのでなく、自由に生れた戀愛を基礎としなければならないもの、そして撰擇の自由があればあるだけ其の自由に對しては一層重い責任があること、つまり永久持續が自由なる戀愛及び結婚の一大要素となつてゐます。

自由離婚と云ふことは、今迄の結婚が餘まりに不完全であつた結果の止むを得ない主張であることを私達は承知してゐなければなりません。

本當の意味の戀愛の自由と、奔放なる、乃至は、病的な戀愛の亂用との間にははつきりした區別があることを知らなければなりません。

婦人に有利な英國の新離婚法

婦人も男子と同等の立場から離婚の請求ができるといふ議案が英國衆議院を通過した。これによつて、冷酷であつたとか、遺棄したとかいふ理由がなくとも、夫の不品行だけで、離婚の請求に對する充分な理由となつたのである。



似て非な社會改革家を排す

過激主義の社會運動者、社會改革家、及び社會奉仕者は原則としては利他主義者です。彼等は彼等の努力によつてよりよき社會を實現させ一般人の幸福を増進しようとする信仰を待つてゐます。そして其の信仰は宗敎上の信仰と同じように烈しく直きに熱狂しようとします。

つまり、それはもと〳〵純粹に情緒的のものなのですから、冷靜な道理の過程にだん〳〵離れて行かうとする傾きを持つてゐます。

實に、社會を改造しようとする社會改良主義及び過激主義のプログラムは主もに衝動と情緒を表現するいはゞ一種の車であるかのような觀があります。宗敎家の信仰の

本體と同じく社會改良家の運動は一種の信仰でありますから、道理はあつても其れは一種の補助に過ぎないのです。

プログラムの中の細い點はいろ〳〵と盛んに論ぜられても其の運動の中心はいつも獨斷的に進められて、合理的な批評などは到底受け入れられません。一種の情緒で動いて居るのですから、其處に偏見が滿ちて居るのは當然です。

過激主義者の中から反過激主義者が出たりすると、過激主義者は其の反過激主義者に『主義を賣つた』と云ふ汚名を附することがありますが、其れは妥當でありません。なぜなら、過激な運動に彼等が引きつけられたのは彼等の情緒でありますから、其の運動に加はるには加はつても、もしそれが彼等の情緒を充分に滿足させなかつたならば、彼等は其の仲間から離れて、不滿足であつた欝憤を反過激主義運動によつて晴らそうとします。唯それだけです。

一方には、又、上流社會、又は、中流階級に屬する人間でありながら、所謂プロレ

テリアの味方となつて社會改革、乃至、過激主義的理想主義的運動の指導者となる人があります。そして、さう云ふ種類の指導者を世間では知力階級の指導者と云つてゐますが、併し、それは、むしろ、情緒的指導者と云つた方が適當でせう。修養と環境と或ひは文化的知力的範圍内に於て自分の情緒を思ふまゝに滿足させることが出來ない處から、さう云ふ方面に動き出したのですから。

けれども、彼等は勞働階級の實際の生活や勞働者の性質を本當に理解して居ないために有効に勞働者の利益を計ることが出來ません。それで、彼等のうちの或る者はいかいつとめて勞働者に同化しようとするのですが併しめつたに成功しません。

それにも拘らず、彼等は知力階級及び中等階級を資本家階級と一緒にして其れに非難の矢を放つことを自分の天職でゞもあるかのような顔をしてゐます。

上流及び中流階級出の社會改革家にはもう一つのタイプがあります。彼等は筆に口に全然勞働者の味方であることを標榜して居ながら、彼等の實際生活は勞働者の生活

とは全く別なものであり、其の上に事實に於ては個人としての勞働者を嫌つて居り、其の結果として勞働者には誤解され、且つ、自分等も勞働者を誤解して居ます。で、彼等は勿論勞働者間に自分の立場を得ることは出來ず、唯、書いたり話したりすることによつて過激な意見を發表し、當局者の目を光らせたり、穩健な社會から敵視されることを以て天晴れ新人であるかのように思つてゐます。所謂机上の革命家と稱するのはかくの如き人物のことです。

社會改革のプログラムと云ふものは大抵の場合多くの贊成者を得ることが出來ますが、前述の事實をまとめて考へて見ますと、其のプログラムによつて、今迄何等かのかたちで壓迫されてゐた心の傾向と情緒を解放することが出來るからです。唯、それだけであつて、其の目的が合法的であり、必ず實行に移り、其の目的に達することが出來る見込みが立つてゐるのではない場合が餘まりに度々あります。線香花火的の宣言が多いのは其の故です。

ですから、發表された運動の目的と其の運動者の行動とには一致がない。つまり、運動者の態度が立派な運動に匹敵するように眞劍で眞面目でないのです。

たとへば、過激的な運動に加はるものゝうちには、其の運動の目的が達せられようと達せられまいと、そんなことには無頓着で、唯、さう云ふ運動に加はつて居れば一定の職業に縛り付けられて窮屈な思ひをせずに、出放題な熱を吹きながら、ごまかして其の日が送れるので、決して產業民主々義の理論を了解し、其の建設に努力しようなどとは考へて居ない輩が少なくないことを私共は認めます。又、主もなる過激主義者を動かしてゐるバネとなつてゐるものは、自己の勢力を張つて見たいと云ふこと、臆面なく自己を主張して見たいと云ふこと、大勢の首領と云ふ位置を占めて見たいと云ふことなどをも認めなければなりません。此の頃の勞働運働のうちに、其れがあざやかに現れてゐます。

私共は、今、動いて止まない時代に生活してゐることは事實です。そして既成の法

律や習慣や制度などの或るものは私共の必要と興味とからはぐん〳〵離れて行かうとしてゐます。私共の必要と興味とから離れて行くだけで無用無害なものならば捨てゝ置けばよい筈ですが、それを捨てゝ置くわけには行かない。なぜなら、それが私共の幸福を奪ひ、進歩の障碍となつてゐる場合が往々あります。

人體に於ける盲腸又は扁桃腺などは、以前には何にかの役に立つて居たのかも知れないけれども、今日の人間に取つては全く無用であるばかりでなく、折々其れが危険な疾病のもととなるが、社會構造のうちにも其れと同じようなものが存在してゐる。或る制度はそれが設定された時には本當に必要で有益なものであつたに相違ない。けれども絶へず動いて止まない人類のためには重い負擔となり進歩の障碍となつてゐる場合があると云ふようなことをウォードも云つてゐます。

ですから、社會改革と云ふことはバイタルネセステーです。つまり、必然行はれなければならないものです。しかも常に行はれて居なければならないものです。放任主

義は餘まりに迂遠です。行ける處迄行つて突き當つたら、又、其の時に考へて見ようなどと云ふ呑氣な暇を今日の私共は持つてゐません。けれども、有効な改革は情緒のみによつて動いて居るような社會改革家や運動のための運動をする過激主義者などの手で行はれるようなものではありません。世間には、又、それ等の輩とは全く趣きを異にして、冷たい道理ばかりで社會問題を解決しようとしてゐる者が一方にはありますが、併し、これも成功は覺付かないものです。なぜなら、改革しようとする社會を構成してゐる人間は暖い情の持主、つまり、感情の動物ですから。

そんなら、如何にせば、道理をもつて情緒を整理し、動いて止まない其の情緒を社會的調節と社會的制裁の合理的な計畫の動力と爲し得るかと云ふことが問題になります。

其處で、少なくとも、社會改革家達は自分等の計畫が確かに社會の改善となり、單なる自己の衝動の滿足に止まるものでないと云ふことの保證を持つ必要があります。

それから、又、此の社會は其の構造のうちに、確かに有害無益な部分が存在してゐることが明らかに分つてゐても、併し、それは何千年來の根を張つて組み立てられてゐるものでありますから、遊戯的乃至反動的又は、單なる道理一ぺんなどで動かせるようななまやさしいものでないことをも彼等は知らねばなりません。

ウオードは又云つてゐます。『無用有害な制度と認めたものでも其の歴史、及び、其の本當の性質が先づ研究されなければならない。殊に、其れが設定された理由、それが發達した狀態、それが必要であつた理由が研究されなければならない。さうした後でなければ、其の制度を攻撃するの論理的の理由が存在しない。』と。

社會改革者の社會問題に對する態度が科學的でなければ彼等の情緒が滿足出來ないようになる迄は、彼等の運動はふくらんでは消へ、ふくらんでは消へて行くあぶくであります。科學は私共に敎へて居ります。

『汝等眞理を知れ。眞理が凡てを解決する。』

と。眞理を知ると同時に其の眞理に從ふ勇氣があり、其の眞理の光りによつて遊戲的な情緖並びに反動的な又は道理一ぺんな偏見の一切が拔き去られた時でなければ凡ての運動が決して有効でありません。

昔は豫言者と云ふものが必要でありました。それが人心を統一したり、又、は人心の向ふ處を指示したりする役目を勤めて居ました。それが所謂宗敎の時代であつたのです。

以來、哲學の時代を通過して、今、私共は實證科學の時代に生きて居ます。實證科學の時代に生きて居るにも拘らず、世間には折り〳〵豫言者的社會改革家が現れます。そして、人心を統一したり、人心の向ふ處を指示するのでなく、多くの場合ひ、人心を攪亂し、徒らに、社會秩序を亂すようなことをします。

さう云ふ似て非な社會改革家を私共は排斥しなければなりません。私共は此際、益々科學と云ふ實際の事實を基礎とする知識を豊富にして行くことに努めたいと思ます。



歴史の社會的解釋

若し私共がマルクス主義の社會進化の法則を捨てねばならぬとすれば、しからば、社會進化の眞の法則はどうして決定し得るか。

歴史上に現れて居る現象を研究すれば凡ゆる社會變化の裏面に働いて居る力は生存問題の解決の要求であるといふ事實が明らかになる。この生存問題の解決といふ一般の要求に我々がその精力を集中しなかつたならば我々自身が自然消滅して了ふからである。凡て過去の歴史は人間が自己の生存を確實にしやうとして努力して來た間の試みと經驗の記錄に過ぎない。生活しやうといふ意志が一般の經濟問題である。

組織された社會とは、人類のこの共通問題を經驗した結果と、そしてその問題の解決は共通な目的をもつて居る人々の共同に依て達せられるといふ事を認めた結果として生れたものである。

凡ての社會進歩は生産の見地から見た利益の衝突の結果ではなく、社會人とし

ての大多數の人間の共通利益に答へて記錄されたものである。社會進化は常にこの一般の法則に從つて働くものである。凡ての社會進步の目的と志望は生存問題の解決といふ事である。

階級爭鬪は結果であつて原因ではない階級爭鬪は生存の手段の不安定に原因するものである。この生存問題の不安定といふ原因を取り去る事が全體としての社會の利益である。

社會が進むに比例してこの原因を取り去らうとする努力に依つて階級爭鬪といふ結果はなくなる。

消費者としての大多數の經濟上の利益は皆一致するものである。そして社會は社會人として又消費者としての大多數の利益に從つて進步するのである。

以前の社會の各形式はその前代の芽として生れ、別な社會の進步を代表して來たのである。其の形式は何であれ、社會は社會の缺乏品を充たすべき生產能力である。其の能力の缺乏は、卽ち、その社會の滅亡を意味するのである。けれども或る特別な必要に應じて一層見込みのある新しい生產力が除々と現れて來て、そして、全體として社會はこの點迄豐富にされて來てゐるのである。

古い方法は新しい方法に讓らねばならぬ。そしてその古い方法に特有な搾取の形式と共に社會秩序は取り去られて了ふ新しい秩序が大多數の社會的利益に從つて古い社會秩序の枠の中に出來て來る。

大多數の人の集まりは大抵は過去の殘片に對し又は現在の無用の物に反對して有力なそして有益なもの丶結合に依てできるものである。

併し如何なる以前の社會秩序も搾取を捨てなかつた事を吾々は知つて居る。社會の必要をよりよく充たす手段として進化した新紀元は舊時代の下に搾取されて居つた人の解放を新紀元の進化と共に實現する。けれどもこの集團からその制裁力の下に改良された生産力をもつた新しい主人階級が起る、そしてその新しい主人階級が又搾取を始める。改良された生産の方法は新しい主人階級の搾取の率を以前の搾取の率よりも遙かに多くする。之れが社會進步の一般の法則である。併し搾取者のより高き經濟上の利益は新紀元の下には舊紀元の下に於いてよりは遙かに確實であつた。そして彼等の社會上の位置も前代に於ける被搾取階級の位置よりはずつと進んで居た。

消費者として又社會人としての彼等の改良された位置は新しい紀元の被搾取階級を搾取階級に結び付けるといふ考察であつた、斯くの如くにして過去の遺物及び現在の無用のものに反對する大多數を糾合する事が出來た。

社會人として又消費者としての大多數の人の經濟上の利益に於て社會に於ける凡ての集團は共通でない利益よりも共通の利益を遙かに多くもつて居る、それ故社會進步は消費者の利益の增大といふ事

である。社會組織は生産の方法の變化と共に變化する。併し生産の方法はその生産の方法が生存の問題を解決する事ができない時に變化する。

社會進化を造るものは經濟的進化ではない、けれども經濟的進化を命令するものは社會進化である。社會進化は生存の問題を解決するといふ目的に於いて生産の社會的方法を進化させた。生産の社會的方法に適用された社會組織は進化の過程である。そして大多數の利益に從つてそれ自身をかたち造つて行く。生産の資本主義的方法を歷史的に恐威して來たものは生産の過剩ではなく、生産の不足であつた。社會主義は消費者の運動に依て實現されるもので生産者の運動に依て實現されるものではない。

こゝに法式化せられた理論は歷史の社會的解釋といふ一般的題目の下に集める事ができる。そして、經濟學卽ち生存問題の解決がこの土臺をなして居る。マルクスの歷史の經濟觀は結果を說明するもので原因を說明するものではない、その結果は凡ての物を轉倒して了つた。經濟の進化が社會進化を生むものであるとマルクスはいふ。社會生産が非社會的原則の働きの結果であるといふ事――卽ち資本家の間の競爭、資本と勞働の間の利益の爭ひ――社會主義は非社會的の法則の働き、卽ち階級爭鬪に依つて實現されるものであるとマルクスはいふ。社會進步は生産者の利益に答へるものであると彼は

いふ。マルクスの歴史の概念では、歴史に記録されて居る別々の紀元を通して働いて居る社會進步の一般法則を適發することは不可能である。それ故彼は二つの法則を吾々に與へなければならなくなつた、即ちその(一)は凡て以前の歴史的運動は小數黨の運動、つまり小數黨の利益の爲であつた、然るにその(二)はプロレタリヤの運動は國民の大多數の利益の爲に大多數の人間の自覺した獨立の運動であると云ふのである。

現代の勞働者は產業の進步と共に向上する事の代りに彼自身の階級の生存狀態の下に益々深く沈まねばならぬといふマルクスの信仰も尙又彼の歴史の經濟觀を基礎としたものである。マルクスに取つては如何なる社會進步も革命に依つての外は可能でなかつたのである。一八五〇年マルクスは次のやうに書いて居る。資本と勞働の反對から起る凡ての問題と同じく十時間問題の唯一の解決はプロレタリヤの革命である、と。

マルクスは社會病理學者であつた。彼は社合病理學を研究した。そして彼は觀察した現象を社會生物學の法則とまちがへた。階級爭闘の現象は社會病理學の象徵である、丁度人體の病理學に於いて痛みや熱や赤色及び腫物の如きが象徵であると同じやうに。前者は、丁度後者が生物學の法則でないやうに、社會學の法則ではない。

マルクスの原則は社會進化の法則の理

解の上に設定されたものではない、故に科學的でない、併し理想郷である。

（ウイリアム）



時事評論

與論の割り引き

一體、言論の自由と云ふことは各人が自分の意見を發表して政府の施政を批評することから始まつてゐる。つまり、政府が云ひ傳へを基礎とした制度を固守して居る時に其の基礎を改革しようとする與論があつても其の與論を政府が壓迫した時に言論の自由と云ふことが叫ばれた

處が、今は、もう其の必要はない。今日に於ては、殆んど凡ての國の政府が可なり與論の影響を受けて國民の聲なる其與論が可なり有效に働いてゐる。で、こうなつて來ると其の與論なるものは必要であるのみならず、其れが聰明でなければならないことは云ふ迄もない。

處で、以前には、つまり、言論の自由が叫ばれた時分には新聞紙の論説が與論の機關であつたが、此の頃の新聞は論説

よりも、所謂社會記事の方が勢力を持つようになり、社會面が輿論を造ると云ふ傾向になつてゐる。けれども、其の社會記事は、人の意見と事實を正確に報導しないから、如何に適切な意見及び確固たる事實があつても其れが效を奏することが出來ない場合ひがあるが、とにかく、今日の輿論の研究は新聞の社會面の研究、つまり、社會面が國民の毎日の生活の解釋であるようになつてゐる。

　であるから、社會記事は今非常に重要な使命を帶びて居るのであるが、其の報導が間違つて居り、國民が間違つた方向に導かれてゐると云ふことは危險千萬である。報導が間違つてゐるばかりでなく度々、新聞記者の想像から成る虚構の事實さへ報告される。のみならず、殆んど凡ての新聞が過激思想の機關紙であるかのような觀さへ呈してゐる。

　それを基礎として造り上げられる輿論なるものが如何なる性質のものであるかは考へたばかりでも戰慄を感ずる。本當の事實を基礎とした正確な輿論が國家を強固にするに反して間違つた報導を基礎として間違つて導かれた輿論は國家を危機に陷れ國民の生活を脅す。其處で、如何にすれば正確な社會記事が得られるかと云ふことが問題になる。

　經濟學が發達して經濟政策が改良され法律學が設定されて司法行政が正確になつたと同じ意味で、社會現象を適確に解釋し、社會記事を正確にするには社會學

の進歩に待たなければならない。つまり國民全部が如何にして社會的に生活すべきかと云ふ氣持ちを持つようになり、同時に、新聞記者が如何にして社會現象を正確に扱ふべきかと云ふ原則を握らないうちは、新聞記事の正確は期待出來ない同時に輿論と云ふものも額面通りには適用しないのである。

盛んな女子運動競技

女子の運動が盛んになつたことは痛快事であるに相違ない。

幼少の頃から姿態を軟弱にすることを目的としての訓練を經て肩をすぼめ、足を内輪にしてシャナリ、グニャリとした若い女の姿を見なれた人の目には、女子

庭球選手のあのピチ〱跳ね上るような活動振りは新聞紙上に現れた寫眞を見ただけでも驚異であり、痛快である。

けれども、此處に一つ注意して置きたいことは、運動の本義を忘れたくないことである。體育が其の目的であるにも拘らず其の目的が全く等閑になつて、運動其れ自身が人生でゞもあるかのように、外の大切な事の一切が忘れられて運動にのみ熱中してしまうと云ふ弊は今迄に男子運動家が度々見せてゐたことであつた。

嘗て、米國で、學生の『時の人物』に附ての知識を調べて見た處が大政治家や大學者の名を知らなかつた者は澤山あつたが、運動家のチャンピオンの名を知らな

い者は無かつたと言ふ。つまり、チャンピオンなどと云ふ名が華美であるために容易に人氣を集中することが出來るのである。

其の爲に運動の精神がじきに失はれて熱中するだけならまだしもだが、職業化してしまうならば墮落である。さう云ふ墮落に陷らない樣に、一時の流行で終はらないように充分注意の上で、盛んに運動されることを私は望んでゐる。

蓄妾制度と日本民族

社會學者ロッスが「日本國民が一種族として可なり優秀な健康を保持してゐるのは蓄妾制度が日本には存在してゐるからだ」と言つたことがあるが、つまり、家柄がどうだとか、親と親とが約束をして置いたからとか言ふ理由で不滿足な結婚をして、其の結婚のみによつて日本民族が繼續するのであるならば、到底優秀な子孫が殘る筈がないと云ふのであるが何と云ふ皮肉な言葉であらう。道德上の要素をぬきにして事實をありのまゝに見て行かうとする社會學者の言葉としては其れは皮肉でも何でも無いのだけれども私共の耳には其れが皮肉に聞へる。なぜなら、それは我が國の結婚が不眞面目不健全であることを立派に裏がきしたものであるから。

一人種としての日本國民にはどれだけの貢獻があつたとしても蓄妾は矢張り蓄妾で其の運命の悲慘は相州平塚海岸に投

身自殺を遂げた松平伯外妾河野すゞの身の上がよく物語つてゐる。

朝日新聞によれば伯とすゞの間に出來た長男の伯邸への入籍が抗まれて我が子が日蔭の身になつて以來烈しいヒステリー症になつたのだと云ひ、讀賣新聞によれば、伯爵は何時迄もすゞとの關係を續けるわけにも行かず人を介して交渉の結果五人の子供は松平伯の庶子として引取りすゞの生活は松平家の方で保證する條件附で手を切ることにきまつたが、快活であつた彼女は別れ話が持上る頃から沈み勝ちで遂にヒステリーになつた、とあるが、其れはどちらにしても同じことで要するに彼女の妾の位置が彼女を破滅に陥れたのである。

それはとにかく、本年三月生れの乳呑子さへある身で五人の子供を置いて投身自殺とは何と云ふ悲慘なことであらう。恨みは永く後へ殘つてゐるに相違ない。たとへ妾であつたとしても子を思ふ母心に變りがある筈はないから。自分の腹を痛め生みの苦しみを經てもうけた子供でありながら其れが自分の子供で無く、一生を共にする筈の相手なる男には自分がそろ／＼老境に入ろうとする時に當つて同棲が覺付かなくなつたので彼女は取りのぼせてしまつたのであろうと考へられる。それにしても、次男から下は容貌迄も伯爵によく似てゐるし疑問の起る餘地もないが長男は果して伯の子であるかゝ疑はしいから長男を除いて他の子供達を

入籍してはとの話に對してすゝは「それでは最初殿様を欺いたことになる。賤しい稼業こそしたが其れ程心は腐つてゐない」と言つて口惜しがり、そして、「全部を入籍するのでなければ總てをお斷はりする」と云ふ言葉は大出來だつた。氣骨のある婦人であつたと云ふことが其の言葉からうかゝはれる。

彼女が最初、妾の位置で滿足してゐたことが誤まりであつたには相違ないが、我が國の悪習慣及び彼女の周圍が彼女に其の道を選ませたのであり、こうなる結果の原因の幾分は彼女側にもあつたには相違ないが、併し、死んで我が心と長男の潔白を示さうとした其の意氣は買つてやらなければならないと思ふ。して見ると、こうなつた罪の全部は松平伯が負はなければならない。そして、伯は慈母を失つた五人の子の前に平身低頭して其の罪を謝さなければならない。子供達にとつては慈母を失ふことが此の人生に於ける不幸中の最大不幸であるから。伯がそう云ふ態度になつてこそ、憤死したすゝの靈も浮ばれよう。でなければ伯は女性を虐げた悪性な男子の一人として永久に女性の呪ひの的であるに相違ない。こう云ふ出來事があるに付け、男子達は餘裕を持つ上流の男子達は、嘘の結婚愛を二重にも三重にもすることの女性を殊に子を持つ女性を犧牲とすることの罪の恐しさを悟らなければならない。「一夫一婦の健全なる結婚生活が强健なる日本民族の

基礎となつてゐる」と云ふ批評を社會學者から受ける日を目標として私達は進んで行かなければならない。

意志強弱の標準

能樂師大槻某を中心に有閑婦人達の戀の暗闘がどうしたとか、林伯の亡弟未亡人貞子が大槻某と白書手をとつて出歩いたとか、それが問題になつてゐるとかそれに對して林博太郎伯の言葉に「貞子は非常に冷靜なところがあつて、そんなことは萬々あるまいと思つてゐた、然し矢張り、女であつた、世間への申譯もあるから離籍するなり、また外に懲戒の方法を講ずるなり、早晩適當の處置を取らねばならぬが……」（東京朝日新聞所載）

とある言葉のうち「然し矢張り女であつた」と云ふ言葉は面白いと思ふ。

それでは、女であるから獨身生活が續けられず男なら續け通せると云ふことになるが、果してさうなのだらうか？　我が國の男子、殊に上流の男子と獨身生活と云ふことは彼等の實際を知つてゐる者には噴飯に耐へないことであらう。――しかも「懲戒の方法――」云々は人を馬鹿にしてゐるように聞へる。と云つて貞子未亡人の態度に決して贊成するものではない。食ふに困らないと云ふ處から彼等有閑階級婦人達の遊惰な氣儘な生活は唾棄すべきものだ其れに付ては本誌五月號にも幾分書いて置いたが此處では唯男子達の豪を適發するために一言しと置く。

女が異性に心を引かれゝば「矢張り女であつた」と云つて「女」と云ふ言葉を「意志薄弱」の代名詞に用ひてゐるのだが併し、男子自身は妻があり妾がある上にも猶且つ別な女性に心を引かれて、いろ〳〵な禍や悶着を醸し絶へず問題を起して居るのは一體それは意志の薄弱に歸因して居るのではないのだらうか？

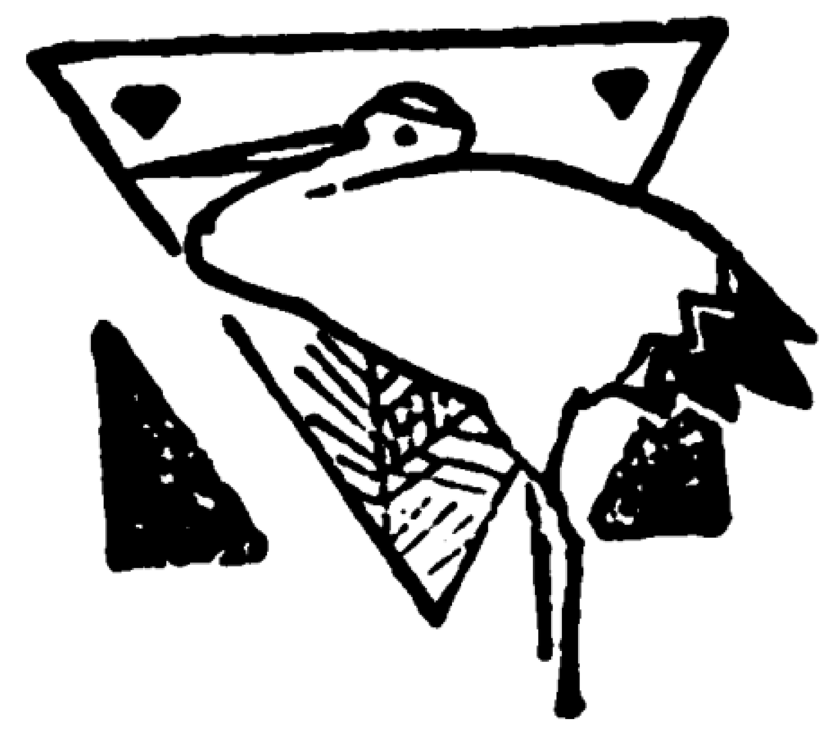
　妻を泣かせ子を苦しめ一家を慘憺たる狀態に陷れることの悪いと云ふことを知りながら多くの男が他の女性に心を引かれて行く例は餘まりに澤山有り過ぎる。であるから、異性に心を引かれることを意志弱薄の標準にするならば大方の男子の意志は全くゼロであることを私は大方の男子に此の際告げて置きたい。

偉人と品行

「世界の詩人といはれ、世界の聖者といはれるやうな大人物のどれもこれもが青年時代には不品行であつた事を或る人が新聞に書き立てゝ居るのを私は見ました。トルストイは少年時代に多くの處女性をもてあそんだ、シエクスピーヤは盗みをしたゲーテは間男をしたと云ふやうな事を、私は今迄輝いて居た黄金の光りが急に只の黄色に變つたやうに感じて不快でした。同時にどうかこの文を今の若い人達に見て貰ひ度くない、その文章を掩ひ隱してしまひたいと思ひました、けれどもその文章は既に日本國中にまわつて居る、あゝと思ひました。

　どんな人でも同じ人間である以上若い時代には時には多くの悩みを持つてゐるでせう。性の悩みもありませう、そして自分で自分の過去を見た時に地にもぐりたいやうな事もありませう。けれど

（六〇頁へつゞく）



日記の中より

原田琴子

○

この間郷里へ歸るときに、汽車の中で見たことである。

私が子供をつれて乗つた三等車の私達のうしろの席に、親子四人連れの客がゐた。私は自分の子供にばかり氣をとられてゐたので、どんな人が自分達のうしろに居るのか、最初は知らなかつた。然しだん／＼乗客が多くなつて大分立ん坊が出來た時分に、私は一人分の席に子供を置いて、自分は立つてしまつたその時うしろから「この汽車は房州まで行くでせうか？」と不意に聲をかけられたため、自然に其方を振り向いて見て、それからその親子連れに注意するやうになつたのだつた。

双親とも四十前後の眞黒に日にやけた顔をして、木綿の着物を着て居た。子供は二人とも男で、一人は十歳前後、一人は三歳位ゐで、男親に抱かれてゐた。「房州まで行くでせう」かと訊かれたことから、私は漁師の一家がうちつれて東京見物に來た歸りでゞもあるのかしらと考へた。

汽車が千葉へ停つた時に、上の方の子は威勢よく窓をあけて、お辨當を一つ買つた。（時はお晝どきではなかつたが）そして母親の手に渡した。母親は折を開け

てゝついてゐる匙で中の鳥辨當を一しやくい子供の掌に載せてやつた、　あつ汚ないとその瞬間に私は思つた、子供の手は、窓やベンチの上や所嫌はず撫でるため、眞黑に汚れてゐたのだから——子供は待ちかねて口へ持つてゆく、そしてすぐにまた手を出す、が母親は二度目の匙は——特に山盛りにして——自分の口へ入れた、子供は遠慮もなく强要する、大きい方の子ばかりではない、父親に抱かれた弟の方も負けずに小さな手を出してせがむ。母親は弟の方にはほんの少し御飯だけを匙の先きにつけて、口へ入れてやつた。そしてまた自分の口へ運ぶ、それは大急ぎの仕事である。子供達からせがまれぬうち急いで自分があらましを食べ盡してしまはうとする風に——だが子供達もなか〳〵負けては居ない。上の方の子はお皿代りのその汚ない掌を無遠慮に母親の鼻先へ持つてゆく、弟の方は手で母親の袖を引つぱる、そして母親はたつた一つのお辨當を後生大切と抱えてゐるのである。父親は最初は默つて見てゐた。が中途から何やらぶつ〳〵云ひ出した樣子である。多分そんなに奪ひ合ふやうにして食べるなとでも云つてゐるのだらう——と思ふうちに、その父親がひよいと手を延して、お辨當の中の奈良漬か何かをつまんだ。すると抱かれた弟の方が『お香子』と叫んで、そして小さな手をのばして、母親の抱えた折の中から、辛じて一きれをつまみ出した。と父親が抱きよせるはづみに大切なそれを床へふり落した。上の方の子はあわてゝそれを拾はうとする。父親は——流石に母親もそれを制した。その頃には折の中は殆どもう空になつてゐた。それでも母親はいつまでも丁寧に、最後の一粒までも餘さじとするかのやうに、二粒三粒位ゐづゝ匙の先きへかけては、自分の口へ運んでゐる。それを見ると子供達は、もう無いのを承知してゐながらやつぱり手を出すのである。『もう止めろ』と父親は母親を叱りつけた。それでも母親はきかぬふりをして、平氣で折の中のお掃除をして、僅かな獲物を口へ運んでゐる——

　私はあつけにとられてその樣子を眺めてゐた、そしてしみ〴〵と心の底で涙ぐましい思ひがした。その人達が實際餓えてゐたとは思はれない。しかし大勢乘つ

てゐる汽車の中で平氣であゝいふ光景を演じる小さな家庭の日々のさまがさこそと推し量られて、いぢらしい氣がしたのだつた。

○

「母さん見てご覧よ、あすこに新らしいお家が出來ましたよ」

「さうれ、きれいだこと」

「あゝあのお家は、お二階があるよ、母さんどうして坊やのお家はお二階がないの、ぼくお二階が欲しいんだけれどなあ」

「そんならこんどお二階のある家へ越しませうよ坊や」

「いやだ、坊やのお家は坊やのお家なんだもの、どうしてよそのお家にはお二階があるの母さん」

「それは大工さんが建てたからですよ」

「そんならぼくのお家にも大工さんに頼んでお二階を建てゝ貰へばいゝ、ねえ母さん大工さんに頼んで建てゝ貰ひなさいよ、お二階がなくちやぼくいやだア」

街を散歩しながら私は、私の五つになる子供とこんな話をした。みじめなプロレタリアの親と子よ！さう思つて心に苦笑したのだつた。

田中芳子夫人の手紙

準入梅とかの今日此の頃も「ベコニヤ」のそれよりも御元氣にお出のことはまことに嬉しくありがたいことに思つて居ります。婦人懇話會で大澤さんから御近況を伺ひまして本誌にありがたいと思ひました。今としては誠に淋しいことでは御座いますが當分がまんせればならぬことですから。

婦人と新社會も毎號面白く拜見して居ります。と申すより私の思つて居ることをまとめて力強く表して下

さるのだ、全く、私の心を書き表したもの。思つて居ても書けない様な、言はふとしても言葉にならない様なことをグン／＼書きつゝけて下さることが本統に私には嬉しくて嬉しくてなりません。本統に御禮を申上げます。」

其所で六月號の御誌も配達さるゝや否や通覽いたしました。例によつて胸がすうつといたしました。そして『若き女性達に』の十五ページの終りに私のお親心のしるし迄に私として申上たいことを見出しました。私は五人の母で純世話女房、夫は略あなたの御理想にも叶ひそうなもので、帝大工學部の教授で御座いましたどうぞあげあしをとるのでないことを充分御承知下さいまし。

『赤子に乳房を含ませながら大人物と話をすることも出來る』全く此の一事は智識慾の盛んな子供に乳を含ませたことのないものゝ誰もが思ふことです。そして私は本統にお子様をお生みになつた御自分のお乳でお育てになつたお母様からもこんなお言葉をうかゞつて私は逡迷はずにそうし様と思つて居りましたが其れはまちがひで御座いました。

瞬間々々よりよく過すといふことを知りながら、明かな智識と確な經驗がない爲に時々私共は迷はされるのです。瞬間々々をよりよく過すことはやはり第一の目的に全心全力を傾きつくすことだと私は思ひます。ですから洗濯も哺乳も勿論きれいによごれをおとすことに乳を與へることに全精神を打込むことが大切です全精神を打込んでして始めて本統に詩を味ふ時間もプラトーやキャント抔と語る時間もが出てくるのだと私は思つて居りますが如何でせう。私は段々そうなつて參りました。殊に哺乳は肉體の營養を與へるといふことゝ魂をうつすことゝ子供の凡てを知るといふことに與へられた時間だと私は思ふ様になりました

山田さん私が他に氣をとられながらのませたお乳は三時間の間を置くのに一寸骨がをれます。初生兒の間でも血になり骨になり魂になれといきごんでのませましたお乳は三時間か過ぎましても平氣で居る時の方が多いので御座いました。それからお乳の飲み工合で赤子の體の異狀を一番よく知ることが出來ます。

哺乳を要する時代の子供に母がせればならぬ子供の仕事は中々澤山御座いますが乳房を含ませる時の「母の態度と氣持」これが次代の思潮になるものだと私は信じて居ります。

私共二人が一つになつて一生懸命に眞面目に正直に子供達を育てゝ參りました結晶の內のこれも一つの信條で御座います。どうぞ御寸暇にお考へ遊ばして見て下さいまし。さよなら

田中芳子

御返事

山田わか子樣　御許に

御手紙を嬉しく拜見致しました。

あなたもおゐでになるようになつたあの會へ行かれなくなつたことを殘念に思ひます。けれども大澤さんに手紙を書いたよりは今は一層氣忙しくなりました。なぜなら、あの時分には一種の方の反譯は二年計畫で御座ゐましたのにあの後出版人の方から一年で完成するように云つて參りました。ですから此處一年間は全然馬車馬です。一寸も橫をふりむくことも出來ずに其の仕事にかぢり付いて居なければなりません「若き女性達」のうちの或る個所に付いての御注意有りがたく拜讀致しました。

本當に嬉しく拜讀致しました、なぜなら、勞力の點から、又、經濟の點からも隨分苦しい思ひをして雜誌を出して居るのは何等かの反響を受けたいと云ふことが主もなる動機の一つです。限りある經驗限りある知識で書くものに缺點が全然ないと自惚れて居るようなことは普通の人間ならば無い筈ですから。それで、全然反響がない、つりま何處からも何とも云はれないならば、それは、『唯見て過ぎよ』で捨て去られるしろしであると言ふ氣が致しますから。

あなたの御言葉を拜見致しました時、成程さうに違ひないと思ひました。同時に、又、あゝ書くに付ては私もさう云ふ微妙な點に全然氣付かなかつたと云ふよりも、唯、具體的に意味を現す方に氣をとられてゐたつまり、表現の仕方が雜駁であつたと云ふことに氣が

付きました。

自分の乳房を含ませると云ふことに私は經驗を持たなかつたのですがそれでも赤子の乳の含み工合、ズツト大きくなつてからも食事の仕方で子供の健康狀態を見てとつてゐたことを忘れてゐたわけでもなかつたのです。唯、母の位置にあつても全然讀書の時間はないと云ふことはないと云ふことを大づかみに具體的に分りよいように云はうとしてあゝ云ふかたちになつたのです。

それでも、猶、こう云ふことは云へませんでせうか授乳して居る時に、又は、洗濯をしてゐる時に其の時の心は赤子の上に又は洗濯の上に大部分集中してゐても、其の集中した心の奥にもう一つの心が働いてゐると云ふことが。今でこそ私は自分の仕事が忙しいために人にやらせてゐますが、以前には朝の雜用が濟んでから、それから洗濯ばかりになつたと云ふ時に、讀みかけてある本の主要な部分を讀んで頭の中へ入れて置いて、さうして洗濯に取りかゝりました。さう致しますと手と目は洗濯の上に集中してゐて間斷なく働いてゐながら勿論其處に心がありながら頭の奥の方では今入れて置いた本の中の文字をしきりに玩味してゐるのでした。

弱年者が手にある仕事を忘れて外に心を奪はれてしまうのとは違ふ意味で、その時々の必要に從つて、或る物を主要とし或るものを二次にして私達の頭は二重の働きを爲し得るものであるように考へますが如何でせう。

私のあの書き方は雜駁であつた、書き足りなかつた御注意によつて其處に氣が付いた。けれども間違ひではなかつたのだと云ふ氣が致しますので此の御返事を書きました。と申して決して御言葉に反抗するのではありませんから、どうぞ惡しからず御讀み下さいまして、又、御氣づきの點を御申こし下さいますよう幾重にも御願ひ致します。

山田わか

田中芳子樣

失業

德永保之助

伊豆雄山そこのふもとの友の家かへりみすれば湯の氣白しも

熱海なら友のなさけに泣きぬれしわれなれやなど外をたのめむや

輕便の車中にこぼれふる若草の露ないとひそうつくしき人（熱海よりの歸途）

浮島の城址に來ていきどほろ二の丸、櫓などとりこぼてろを（靜岡にて）

茶畑のみどりにソフアのうまいせばや三等車の窓におもひつかれぬ（靜岡への汽車中）

いささかは病おこたれば職につかむと友にたのめどとみに得がたみ

職をもとめ昔は靜岡に來つれども人の働くを見てむなしくかへる

失業はかなしくさびしかたはらに人のはたらくを見つせん術もなみ

社會主義をやめしといへどこの友は昔ながらにわれに親しも

かへるべきふる里もなみわがからだ旅に病みつつ職業をあさる

おことはり

長らく續けて參りました敎育社會學はまだ全體としては完結は致しませんが、「組織と制度」だけは前號で終りました。で、此の誌上に於ては一先づ打ち切りにして、其のうち折りを見て全部をまとめ一册の本としようと考へて居ります。そして、敎育社會學の代りに「近代歐洲思想の歷史的研究」を掲載致します。

近代歐洲思想の歷史的研究

○

思想の生命の神秘

無數の人が抱いて居る漠然とした憧憬、それは表現されることも滿足させられる時もない。又、決して人に知られずに闇から闇に葬られる無數の失敗。人の心に於いてのみ存在し、或ひは彼等の生きた姿に於いてのみ描かれて居る無數の慾望、覇氣、又は缺乏の爲めに刺戟されて、實際問題の解決に努力した

り、或ひは又、自然界の謎を解かうとして不成功に終つた企てに科學者が費した多くの時間。凡て是等の隱れた忘れられて居る努力が實は一國民の思想の大なる部分を形作つて居るのである。けれども、表面に現れてゐるのは其のうちの唯、一小部分に過ぎない。譬へば、文學に、科學に、詩學に、藝術に、又、實際上の功績に於いて處々に現れて居るだけである。勿論、同じやうに著名とは言はないが、併し、同じやうに重要な此等の忘れられた思想の大きな量が實は桝を滿したもの、つまり、マッチを擦りさへすれば直ぐ燃え上るやうに燃料を堆み重ねたものが其の隱れた忘れられた努力である。而して、其の忘れられた思想が一大動力を造て居るのである。プロペラとなつて居るのである。力は貯へられて、其の力を活躍させ利用しようとする天才の現れるのを待つて居るのである。

哲學者は多くの生命が無駄になつて居ること、無數の胚種が死滅すること、無益に散らされる莫大なる種子、と言ふことを言ふ。けれども、同じやうな運命が知力と道

他の上の努力の大部分にも存在する。と言つて、それは犧牲ではない。併しながら、二三を成功せしむる爲めの多くの共同である、秀逸は合同した努力の褒美である。一人がより高い位置に達する爲には多くが走らねばならぬと言ふことは深く考へれば明瞭になる。社會の疾患を處置する爲めに一生を終る人、壓制されて居る國民の爲めに叫びを擧げる人、又は、戰爭や軍國主義を呪つて說敎する正直な人々の澤山を慰める爲めには前述の感情よりも他の感情では不可能である。或ひは又、印刷機から死んで生れることになる書物を作るために半生を費した著者も、もし、彼が失敗してもそれは彼の後に來るものが成功する爲めであり、而して彼の失敗は、有益な目的に達する爲めの共同した無聲の、而して、隱れた努力であつたと云ふ自信を持つならば、それは最高な利他主義の滿足である。

同時代の歷史の方が過去の歷史よりは忠實に描ける

併しながら、誰が後の時代になつて此の忘れられた隱れて居る國民の努力を記錄し得るであらうか？　新しい努力が現れる前

には何處に壓迫が最强で努力が最大であつたかを感ずる程誰の歷史觀が充分に濃やかであらうか？　誰の目が、譬へ、日の出の赫々とした光りをまばしがつても、併し、夕暮のぼんやりとした光りの線をはつきりと見送る程、充分に透徹で、明敏であらうか？　來らんとする光を豫想して、陰影と困難と障害に取り卷かれて生活して居る我々、一兵士であつて大將でない我々、戰爭中に生活して居て戰爭の後には生きて居ない我々、其の我々の無限な望みと努力、共通な努力、我々の時代の隱れて居る知力的及び道德的のそれ等の努力を記錄するには將來の歷史家よりも同時代人なる我々の方が適當であらう。

十九世紀の後半に生活した我々は我々の所有する經驗と智識を以て、此の世紀のどの邊迄跡附け得るものであるかは興味ある點である。我々の兩親、我々の祖父母に於いて我々は其の時代の代表者を見た。而して、其の時代は奴隸廢止の大運動、選擧權の擴張、穀物條令の廢止運動等の利益を目擊し、其のために、働いた時代である。其の

時代は蒸發力やギャスの發明に依つて起された革命をも經驗した。而して、外國の國民的及び普通敎育の偉大なる仕事に仲間入りした時代、英國に於ける學校生活が改革された時代であつた。我々の父母や祖父母は、又、獨逸に於ける反ナポレオンの革命の熱狂主義をも目擊して來た。而してゲーテの成熟した人格の感化を受け、北方の魔術師(ウォター、スコット)のペン先から流れ出た物語に魅せられ、ローマンチック派の精神を味ひ、バイロンの詩の電氣のような感情に觸れ、第三フランス革命に於ける大辯說家に聞き、而して、ナポレオン第一世が數百萬の崇拜者を造つた、けれども今は忘れられて居る、その魔力をも我々の父母や祖父母は我々に話すことが出來た。それ等の魅力と興味は同時代の人及び今生き殘つて居る目擊者の話に於いてのみ生きて居るのだ其の目擊者の僅かゝペン(文學)とブラッシユ(繪畫)でその等の物語を永久に殘すことに於いて成功した。斯くして未來の時代に、其の話を了解せしめる。而して、彼等の大低は時代それ自身と共に死んで仕舞つて居る。生き殘つて居る彼等の言葉の

中に、又は、容貌の中に彼等が經驗して來た憂慮の跡を我々は見る。のみならず、我々は、又彼等の眼の内に反映して居る熱狂及び希望の光りを見、且つ又彼等の聲の内には過去の怒りと喜びが生々として居る。我々は彼等から雄辯な證據、生きた遺產を受け取つたのである。

言葉の變化は思想の變化の證左

けれども、我々は、我々が受け取つた儘の形で其の遺產を我々の子孫に、傳へることは出來ない。それは變化されずに我々の手を通して濾過されない。其の遺產と云ふのは我々の兩親が我々に敎へた國語である。知らず識らず我々の兩親も亦先代から受け繼いだ國語、文字、文章を變更して我々に讓つた。それ等の變更された言葉（スピーチ）や言語の裏に彼等は彼等の生活して來た時代の精神や觀念や思想を蓄へて置いた。それ等の言葉と言語を我々の父母は我々が子供の時に我々に讓つた。つまり、我々の心を形作る鑄型として、我々の徐々と成長して行く思想の發達を保護する貝殼として、又、我々の思想を運ぶ道具として我々に傳へた。

父母及び祖父母の言葉に依つて、彼等に特有な句や通り言葉に依つて、重要な興味あるものと些細などうでもよいものとを區別すること、我々の思想を專有すべき問題我々が從ふべき目的、我々が利用すべき原則と方法を我々は學んだ。彼等は是等のものを矢張り前代から受け繼いで來たのである。けれども、彼等の特別な使用の爲めに國語の柔軟な彈力性を仲介として、彼等は彼等の道理の一層細い區別や彼等の感情や及び、彼等の抱負の細い陰影を國語に附け加へ、變更した。其の美しい鑄型と共に以前の時代の精神を我々は受け繼いだ。それが我々に思想の或る相に走る傾向を指示すると同時にそれは又我々が新しい豫想外な發見や趣味や又は感情と同化する能力の獲得を困難ならしめた。其の能力を獲得するには殆んど氣の附かない度に於いて徐々と得て行くより外に方法はなかつた。

獨創的な思想の表現には因習的な言葉は不充分

我々の多くは若い時に獲得した特別な性質や思想の相に拘泥して居る。而して或る人は、又、外國語を學ぶことに依つて、全

く異つた思想の諸相を理解することを學ぶ。けれども、獨創的な考へを發達させて、因習的な言葉の殼を破り、新しい言葉や、新しい表現の仕方を創造して、其の裏に、其の時代の迅かに飛び去らうとする思想、その時代の殆んど定義の下しやうのない精神を盛つて置かうとするやうな人は少い。さう云ふ意味の言葉が一度云ひ現はされるならば、それは、速かに傳播される。であるから、一時代の期間を振り返つて見るならば我々の國語の文學や文體の變化の裏に、意見や趣味の進步と發達を易く見ることが出來る。

○

十九世紀の思想の生命を跡つける

十九世紀の中葉頃迄を記憶し、其の時よりも猶以前の時代の思想を含んだ敎育を受けた讀者は、及び著者は十九世紀の大部分と、其の十九世紀が創造した利益及び十九世紀を動かした思想の大部分とを經驗的に知つて居ると言ふことが出來るのは上に言つたやうな譯からである。其處で出來るなら、此の

遺產を、我々に取つては秘密な財產であるやうに見ゆる此の遺產を確實にし消滅させたくないと言ふのが此の研究の目的である。此の著しい時代の最後の今死なんとする時に當つて其の輪廓を確かに捉へ、其の精神生活の消え去らうとする輪廓を明らかにする爲めに、文字となつて居る證據や又は他人の記錄から出來る丈多くの知識を蒐集し、我々の時代が宇宙と人生をどう言ふ風に眺めたか、則ち如何に我々の時代が其の輪廓を知力化し又精神化したかの特有な方法に對する或る考へを後の研究者に提供する爲めの連絡する繪を描かうとするのが此の研究の目的である。

○

科學知識は國際的

思想界に於ける發見の旅は今は殆んど不可能になつて居る。何となれば、少くとも十九世紀中に科學は國際的になつて仕舞つた。孤立した又は隔離された思想の中心と言ふものは段々稀になつて來た。定期刊行物や交際や又は多くの學會が會合したり、報告書を出版したりすることに依つて、極く細い發見及

び最新の發達に至る迄全世界に發表するやうになつた。一國民の特長と言ふものは猶存在して居る。けれども、其の特長を知らうとすれば、主に、其の國の奥深く隱れて居る思想の隅々に迄突き入つて行かなければならない。而して、到底他國語に飜譯出來ない方言の衷に微かに含まれてゐる意味や、明瞭に表現しようとして表現し得ないと言ふやうな、と言ふよりは、寧ろ暗示してある丈に止まるやうな思想に觸れて見なければならない。思想には其の黎明期もあれば黄昏時もある。明暗定かならぬ時もあれば白日のやうな時もある。而して、其の白日のやうになつた思想が此の世紀中に段々廣がつて行き、段々明瞭になつた。そして、以前には佛蘭西の思想、獨逸の思想、英國の思想と言つて居たのに反して、其等を打つて一丸となし、先づ、大體に於いて歐洲思想と言ひ得るものが出來上つた。此のより大きくなつた國際生活の範圍內にも猶、各國の思想に特有なものがあるが、それを研究する仕事は別として、私が第一に取り扱はうとするものは其の英獨佛に共通な歐洲思想の大きな一集合體である。此の

一體はどうして、どう言ふ風に成長したか？　その一集合體を造るには各國民がそれぞれどう言ふ特別な貢献をしたか？　而して、其の集合體の今日の目錄はどう言ふものであるか？　其の集合體が今世紀中にどう言ふ風に變化したか？　と言ふことを研究するのである。

○

思想、隱れた世界

歷史が我々の目前に展開する外界の出來事や變化のパノラマの裏面に其處に、其の出來事や變化を起し、又は、其の出來事や變化に伴つて行く慾望や動機や又は情慾や精力の隱れた世界がある。人生の忙しい舞臺の裏面には思想と言ふ樂屋があるのである。事實や出來事が一個の片斷ではなく、併し一定の計畫と目的に從つて連絡があり、而して、我々が或る根本の原因に迄溯り得るやうになり、或ひは或る一定の目的に達することが出來るやうになつた時にのみ、それが所謂我々の意味する歷史である。つまり、外界の事實や出來事の連絡を摑み記述する前に

其れ等の事實や出來事の基礎となり、又、其れ等に伴ふ隱れて居る動機、慾望、精力を何かの方法で連絡させ、而して幾分かの秩序を附けて置く必要がある。事實や出來事の記錄及び批評を可能ならしめ、而して、其の事實や出來事の基礎となつて、其の事實や出來事を連結させて居るもの、及び、其の事實や出來事を歷史家が描きだし得るのは思想と言ふ隱れた要素があるからである。行爲の原則であれ、又は後の省察の仲介としてゞあれ、思想は、而して、思想のみが、孤立したものを整へ、結び付け、聯結し、而して停滯したものを動かし、靜止の狀態にあるものを推進せしめる。思想を取り去つたならば一切が單調になつて仕舞ふ。

自然の歷史如何に理解される

此の斷定は、人間の活動の狹い範圍に於けるよりも、寧ろ、自然の偉大な現象を見ようとする多くの人々に取つては、大膽過ぎるやうに思へるかも知れない、けれども、さうではないと言ふことを證據立てるには僅か二、三の說明で事足りる。人間の生活とは無關係に、地球には地球の歷史がある。太陽系

は發達を遂げ、又、現代の學說によれば、無機體、並びに有機體を支配する原則は進化であること、靜止の狀態と無變化と言ふことは何處にも存在せず、至る處、變化と而して、不安定のみであると言ふことが出來る。

知力がなければ理解することは出來ない

けれども、其の變化と不安定が必ずしも歷史を造るのではない。運動と變化は、若し、それが無限に唯單に繰り返へされるのであるならば、而して、其の全體の運動が其の始めに於てよりもより多くの或るものを創造せず、而して、又、其の或るものが始めのものよりも、より大きくもなく、又、より、よくもなかつたならば、運動と變化は絕對の靜止と同じく單調なものであるだらう。けれども、より大きいとかより優れて居るとか言ふことは一つの理想に依つて甲より乙により大なる價値を見る我々の比較を意味する言葉である。より大きいとかより小さいとか言ふことはものそれ自身にも、亦自然の過程の內にも附着して居るのではなく、唯、我々の心のうちにのみ存在して居るものである。恐らく單なる機械的の

變化は無限に續く。則ち、無數の變化の形式は創造される。けれども、此の過程は一元から多元に迄の變遷、乃至は形式的變化を起すことが理解される時にのみ、換言れば、此の過程の結果が幾分か有意義なもので、則ち、それに興味が起り、而して、損益が記録されると言ふ場合にのみ歴史と言はれるであらう。無限に單調に右と左に振れる分銅、絶えず太陽を廻つて行く遊星、同じ道に波動して居る物體の微分子は、彼等の運動を支配し、而して、我々の心の内に彼等を想像させ、考へさせる數學の式以上に我々に取つては興味はない。是等の單原の運動が無限に重つても、斯樣な運動の連結から或る新しい又は豫想されなかつたものが生れなかつたならば、譬へば、美しいものとか有益なものとか、又は、高尚とか高尚でないとか言ふものが生れなかつたならば、それ等の運動は無意味である。

併し、無機界に於いてゝすら、變化の過程に興味があればそれが歴史になる。勿論それを記録し、理解し、而して鑑識する心があつての場合にのみことではあるが。若

し、我々人間が、唯、傍觀者であるのみならず、猶、又、我々自身が問題であるならば、其の場合には興味は一層大である。若し、續く年月が何等價値ある變化を持ち來たさないならば、則ち、生存の原則と生命の秩序が唯單調を繰り返へして居るに過ぎないとしたならば其處には歷史はない。

野蠻種族の歷史

亞弗利加の野蠻種族にも歷史がある。けれども、其の歷史は單に年月の歷史に過ぎない。非常に複雜して居る、けれども、停滯した生活、譬へば、支那のそれの如きは歷史的には甚だ短い記錄であるだらう。歷史的には支那の數千年は現代歐洲の數日にも及ばないだらう。

斯くの如くに思想は歷史家に取つては二重に重要な意義と大なる興味の問題となる自然界或ひは人生に於ける各々の變化に關して、我々は常に其の結果が思想界に於いて何であつたか？ 如何なる損益、如何なる進步をそれは人間の心に、則ち、我々の心に持ち來したか？ それは我々の知識を增加し、我々の思想を豐富にし、我々の內

觀を深くし、我々の考へと同情を廣くしたか、どうか？　一言で言ふなら、それは我々の利益を增大したか？　それは、我々の內生活をより充實せしめたか？　と言ふことが問題となる。而して、人事に於ける各變化に就いては我々は、それから先のもう一つの質問をなし得ると思ふ。則ち、思想、內生活は其の變化に於て如何なる役目を活躍したか？　と。此の二つの質問に答へることが思想の歷史家の仕事である。（つゞく）

―メルツ―

（三七頁よりつゞく）　も人は已れの過去の非を非と知つては直し直しする事に依て高尙になるのではないでせうか。世界的有名となつた大偉人は自分で有名にならうとしたのではなく、世界がその偉い處を認めて有名にしたのであると私は思ひます。世界的大人物が皆かふであつた、あゝであつたと惡い點を公表する時に若し第二第三の島濟かあつたとすれば彼等は何んと感じるでせうか、石油に火をつけるやうなものではないでせうか？　かりに自分の親が不身持であつたとしても私はむりにそれを信じたくない、そして自分の親は偉いと迄は行かなくともせめて品行方正な善良な人物であつたと信じて居たいそして自分も偉くはならなくともせめては自分の親位ひの人物になりたいと思ふ。況してや世界的偉人を神様のやうに思つて居たい、自分達の鏡と思つて居たい、わざ／＼鏡をくもらすようなことはしたくないと思ひます。◎山田わか氏が此の度大きな仕事に取りかゝり多忙の上に又多忙になつたゝめ、私が校正其の他本誌に付ての雜務をとることになりました。（ひさ）

編輯を終つて

いよ〳〵梅雨期に入りまして毎日々々雨が降つて居ります。うつとうしいと云へばうつとうしいですが、併し、これが自然の計畫であり、其の計畫が順調に取り運ばれて居るのであり、そして、此の雨によつて私共日本國民の主食物を産出するための田植が無事に爲されるのであり、私共の生活に無くてならない草木がグン〳〵成長するのだと思へば、此の雨も亦嬉しいものゝ一つです

私は、今、非常に大きな反譯に取りかゝつて居ります。それは、日本の學界へ必ず有益な貢献となると云ふ自信があつて始めたことですが、實は、最初、二年では完成するかどうかと考へて居りました處が、出版者の方から一年でほゞ完成するようにと要求されて居ります。原書の總頁數が二千八百頁ありまして、反譯致しますと四百字詰の原稿紙八千枚位になるだらうと考へて居ります。一年では到底難しいけれども、とにかく一ヶ月四百枚づゝ書き上げて出版者に送ると云ふ約束の下に毎日々々極力努力して居ります。此の本の原著者に付て又私共が此の本を譯すようになつた動機、又は、過程に付てはいづれ其のうち折りを見て詳細にお話致しますが、唯、此處で申上げて置きたいことは、そんなわけで、私が本誌のために費し得る時間がズット少なくなりましたので、「教育社會學」の代りに毎日反譯しつゝあるものゝ中から、斷片でも了解出來、そして、皆様に興味のありそうな處を引きぬいて、そして、「近代歐洲思想の歴史的研究」の題名の下に御紹介することに致します。どうぞ、御愛讀の程を御願ひ致します。

昨年は主人が留守であつたにも拘らず隨分あちこち遠い處へ講演に出かけましたが此の仕事が終る迄はどうすることも出來ません。最も前からの約束で此の八月中旬にに信州へ四日間の講演に行かなければなりませんがそれを打ち切りとして暫くの間は毎日々々原書と原稿紙にしがみついた生活を送ります。

皆様の御健勝を祈ります。

本誌定價表

一册	六册	十二册
金二十五錢	前金壹圓四十錢	前金貳圓七十錢
送料五厘	（送料共）	（送料共）

本誌代及郵税は前金の事御送金の際は振替貯金東京五三六八八番に御拂込みのこと郵券代用は五厘切手にて一割増廣告は御照會次第御相談いたします

大正十二年六月廿三日印刷納本
大正十二年　月　一日發行

東京四谷區南伊賀町四一
編輯兼發行人　山田嘉吉

東京神田區仲猿樂町十七
印刷人　大杉直次郎

東京四谷區南伊賀町四一
發行所　婦人と新社會社
振替東京五三六八八